

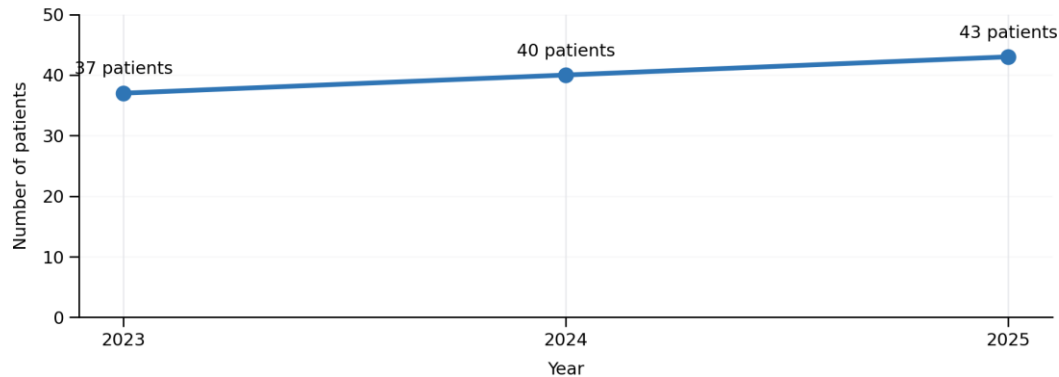
統合失調症患者におけるクロザピン処方実人数

独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター | 2023～2025 年

年度別実績

年	対象患者数	処方実人数
2023	258	37
2024	206	40
2025	183	43

Number of patients prescribed clozapine



評価

クロザピン処方実人数は、2023 年 37 人、2024 年 40 人、2025 年 43 人と 3 年間で増加している。

指標の解釈

本指標は割合ではなく処方実人数であり、目標値は設定されていない。対象となる統合失調症患者数が変化しているため、人数の推移と併せて導入・継続・中止の状況を確認する。

総括：クロザピン処方実人数は 3 年間で増加している。治療抵抗性統合失調症への適正使用と、安全な導入・継続管理を多職種で維持する。

評価と質改善への活用

観点	内容
指標の把握	クロザピン処方実人数は 2023 年 37 人、2024 年 40 人、2025 年 43 人と増加している。
現状評価	目標値のない実人数指標であり、単純な多寡ではなく、適応評価と安全管理の質を併せて確認する。
臨床的評価	治療抵抗性、既往治療、治療効果、副作用、同意、服薬継続状況を個別に評価する。
プロセス評価	導入前評価、血液検査等のモニタリング、副作用対応、多職種連携、退院後の継続体制を確認する。
継続評価	処方実人数に加え、新規導入、継続、中止、中止理由、再入院等を把握する。

今後の重点的な確認項目

項目	確認内容
適応評価	治療抵抗性統合失調症の診断と過去の十分な薬物治療歴を確認する。
安全管理	定められた検査・観察を実施し、血液学的有害事象、心筋炎、便秘等に適切に対応する。
多職種連携	医師、看護師、薬剤師、検査部門等で、導入・継続・副作用対応を共有する。
継続支援	退院後も検査、服薬、受診を継続できるよう外来・地域支援と連携する。
再測定	処方実人数とともに、新規導入数、中止数、中止理由、治療継続状況を確認する。

質改善サイクル

対象症例の把握 → 適応評価 → 多職種による導入・安全管理 → 効果・副作用評価 → 継続支援 → 再評価
--

参考資料

- 国立病院機構「臨床評価指標について」
- 日本医療機能評価機構「機能種別と評価項目」